図書館員のひみつの本棚　第３５回

こんにちは。
春の嵐も過ぎ去り、暖かい毎日が続いています。
今月はそんな春のはじめにぴったりの日本の昔話をご紹介します。

『みるなのくら』
おざわ　としお　再話　赤羽　末吉　絵　福音館書店　1989 年　1365 円　絵本
＜お勧め年齢＞
幼稚園★★★　小低学年★★★　小中学年★★☆　小高学年★☆☆　中学生☆☆☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）
＜本の紹介＞
うぐいすのこえにさそわれて、やまのおくへとはいりこんでしまったわかものは、やまのおくにおおきなやしきをみつけます。みちにまよったわかものを、きのどくにおもったやしきのあねさまは、わかものをやしきへとめてくれました。つぎのひ、あねさまは、わかものにるすばんをたのんで、さとへでかけていきました。でかけるまえに、あねさまは「このうちには、くらが十二あります。一のくらから十一のくらまでは、のぞいてみてもかまいません。けれども、さいごの十二のくらだけはけっしてみないでくださいね」といいのこしていきました。しばらくして、わかものは、くらのとをあけてみたくなり、一のくらをあけてみます。するとそこには、おもいもかけないけしきがありました。
＜子どもに手渡すときのポイント＞
日本の昔話なので幅広い年齢の子どもに楽しんでもらえます。今回は絵本をご紹介しましたが、これと同じおはなしが『日本昔話百選』に「うぐいすの里」という題名で、『日本の昔話１　はなさかじい』に「みるなのくら」の題名で収録されています。こちらをテキストにストーリーテリングをしても楽しめます。また、昔話は地方や再話によって違いがありますので、絵本を含むそれぞれのおはなしの違いを読み比べてみるのも楽しいかもしれません。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館　吉岡　さやか